

ほん  
こども版

大和市学校教育情報新聞

令和4年(2022年)10月 大和市教育委員会 発行

# まなびやまと



大和市  
イベントキャラクター  
ヤマトン

☆  
ウィズコロナ  
あたらしい  
**新しい学校生活!**  
がっこう  
せい  
かつ

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、人々の生活は大きく変わりました。「アフターコロナ」「ウィズコロナ」は、新型コロナウイルス流行後の新しい社会のあり方について話す時に使われる言葉です。学校では、「ウィズコロナ」の新しい生活が始まっています。では、各校の取り組みの一部をご紹介します。

## ★ 茶道体験

みどりのしょうがっこう  
緑野小学校



6年生の児童は、「大和みどり会」(岩本宗翠会長)ご協力のもと、6月23日(木)と24日(金)の二日間、学区の多胡記念公園内にある「慈緑庵」という茶室を訪れ、茶道体験を行いました。コロナ禍のため、飲食を伴う茶道体験はしばらく実施できていませんでしたが、今年には感染症対策をした上で、数年振りに参加者全員がお茶を点てて飲んだり、お茶菓子を食べたりなどの体験をすることができました。

体験を終えた子どもたちは、「いつも飲んでいるお茶とは違って」「ちよっと苦かったけどおいしかった」「和の匂いがした」など、普段なかなかできない貴重な体験に、嬉しそうな表情を浮かべながら感想を話していました。



茶室へ入る前には、ここで手を清めます。

## 日本の伝統文化である 茶道の心を学びました!



茶室へは、躰口という小さな入り口から入ります。なぜこんなに狭い入り口にしたのかな??



お茶を点てる時は、素早く茶筌を動かし、きめ細やかな泡を表面につくりまます。



感謝の気持ちを表すため、正座をして畳に手をつけて、頭を深く下げてからお茶を頂きます。

# ★ ゆめるんルン

(異学年交流)

柳橋小学校



6月22日(水)、ロング昼休みの時間に、「ゆめるんルン」という行事が行われました。「ゆめるんルン」では、ペア学年(1年と6年、2年と4年、3年と5年)がそれぞれ数人ずつ集まって班を作り、一緒に様々な活動を行います。何をやるのかは、高学年が中心となって事前に話し合っ決めて決めます。ある班は、「走るのが苦手な一年生がいたので、班のみんなが楽しめる『だるまさんが転んだ』をして遊ぶことにしました」と話していました。校庭や体育館、教室など、学校のあらゆるところで、コロナに負けず笑顔いっぱい遊ぶ子どもたちの姿が見られました。



校庭では、みんな元気いっぱいに走り回って遊んでいたよ。

折り紙の折り方を  
クロームブック  
Chromebookで調べているよ。



上級生が塗り絵を作ってくれたよ。



「だるまさんが転んだ！」  
1年生も6年生も一緒に楽しもう。

今年、柳橋小学校は創立50周年！

「考えよう！やってみよう！」をキーワードに、子どもたちが中心となって学校を盛り上げていました。

# ★ オンライン インタビュー

北大和小学校



9月21日(水)、5年生の社会科の授業で、神奈川県川崎市の水産市場で働く仲卸業者の方にオンラインインタビューをしました。コロナの影響や遠方のためなど、直接会うことが難しい場合でも、こうしてオンラインで繋がることで、離れた場所にいる人の顔を見ながら話をするのができます。子どもたちは、「市場の魚は、1匹いくらしますか？」「仕事で大変なこと何ですか？」「なぜ仲卸業の仕事を就いたのですか？」など、たくさん質問していました。仲卸業者の方からも、「好きな魚は何ですか？」「新鮮な魚の見分け方を知っていますか？」と質問されるなど、水産業について学びを深めることができました。



水産市場で働く仲卸業者の方にインタビュー！

大型モニターとChromebookを活用しています。



インタビューを聞きながら、その場でどんどんChromebookに入力している子もいました。

# ★ 部活動紹介 ★

## ●南林間中学校 バスケットボール部

みなみりんかんちゅうがっこう

バスケットボール部は体育館で練習を行っています。この日は、ウォーミングアップ後、基本のパスやシュート練習から、1対1や少人数での練習、ミニゲーム形式での動きの確認と練習など、短い時間でテンポ良く、集中して練習に取り組んでいました。



れんしゅう しんけん 練習も真剣そのもの



1対1での練習



ゴール下のシュート

練習後、「チームでうまくパスを繋げて、シュートを決めた時が一番楽しい」と話していたのが印象的でした。男子も女子も県央大会1位を目指し、一生懸命練習に取り組んでいます。

## ●光丘中学校 卓球部

ひかりがおかちゅうがっこう



基礎打ち練習

体育館の半面に卓球台を並べて、卓球部が練習をしていました。3年生が引退して、部員の数は現在1・2年生で男女合わせて30名です。男子は県ベスト8、女子は県ベスト3を目標に、日々練習に励んでいます。



サーブ練習

## ●光丘中学校 PC部

ひかりがおかちゅうがっこう

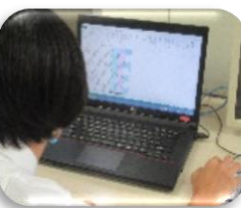
PC部



PC部は、週3回活動しています。「コンクールに出るためにタイピングを頑張っています」「文化発表会のために動画を制作しています」など、自分で目標を決めて取り組んでいます。



自由課題やスキルアップ課題に挑戦



## ●引地台中学校 合唱部

ひきじだいちゅうがっこう

9月30日(金)、イオンモール大和1階のライトコートで、イオンモール大和とFMやまとのイベント「マンスリー GOLDEN LIVE」があり、合唱部が出演しました。

コンサートでは、「やさしさに包まれたなら」系などの歌曲から、合唱曲として有名な「地球屋敷」、NHK全国学校音楽コンクールの課題曲「Replay」など、全7曲を斉唱や合唱、一人で歌うソロパート、伴奏無しで歌うアカペラなどで披露しました。

引退を控える3年生は、今回の曲の中でも、NHK全国学校音楽コンクールでも歌った「Replay」が好きたと話していました。



部員は、3年生2名、2年生2名、1年生1名の計5名。普段は日曜日以外、毎日活動をしています。

この日の出演は2回。どちらの回も、会場には大人から子どもまでたくさんのお客様が集まり、5人の綺麗な歌声にみんな耳を傾けていました。会場は1階でしたが、吹き抜けのフロアの上まで歌声が広がり、1曲終わると大きな拍手に包まれました。

「持続可能な生徒会活動を」

目指した学校

大和市立鶴間中学校

本校は、昭和50年4月1日に開校しました。生徒数660名・17学級・職員30名でスタートしました。校歌の歌詞に、

「鶴舞いの里 日に展げ  
続く家並みも 新しく」

その昔、源頼朝が富士の鷹狩りの帰途、この地を通り、鶴が舞うのを見て「鶴舞の里」と名づけたという言い伝えがあるそうです。この「鶴舞い」が転じて「鶴間」という地名になったとも言われており、歴史ある地で、閑静な住宅街で子どもたちと先生は希望をもってこの学校での生活を始めました。

令和4年7月現在、生徒数447名・15学級です。今年1月から真新しい校舎に移動し、恵まれた環境の中、子どもたちは日々元気に過ごしています。

では、本校の最近の様子をご紹介します。今回は、鶴間中学校の生徒会活動についてご紹介したいと思います。現在、鶴間中生徒会本部は第48期として7名で活動しています。今年度の生徒会コンセプト「開かれた生徒会」「持続可能な生徒会」をもとに、活動内容を刷新してきました。

これまでの生徒会活動は熱心な取り組みのあまり、活動時間の長さや部活動等との両立といった課題に直面してきました。そこで今期の生徒会では活動の在り方そのものを見直し、質を重視した活動になるよう話し合いました。その一つの取り組みが「ICT化によるペーパーレス」です。



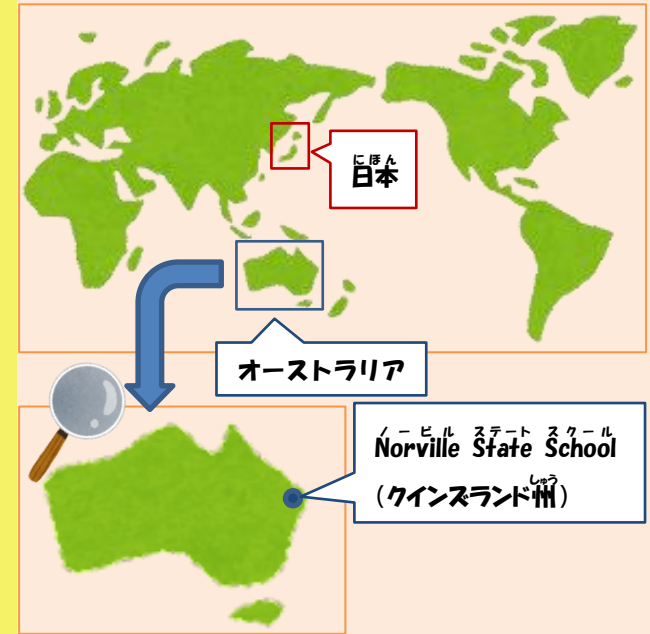
今期の生徒会では、会議の議事録、委員会の記録、生徒総会の議案書など、生徒会で使うすべての書類を電子化しました。生徒に貸与されている端末(クロムブック)をフル活用し、ICT化、効率化を図っています。今期の生徒会役員の中には会長をはじめ、その活用に向けたメンバーが揃っており、自分たちでよい活用方法を模索したり、端末の活用研修を企画するなど、積極的にICT化に取り組みすることで作業の負担軽減など目に見える達成感を感じています。今後はアンケートや委員会の連絡などにもICT化を取り入れていこうと計画中です。

また、これらの取り組みの成果を1学期終業式の午後に行われた「生徒会9校合同ミーティング」で発表しました。自校の発表だけでなく、他の8校の取り組みを聞き、大きな刺激を受けたようです。

2学期は、1学期の取り組みを生かした上で、効率化できた分、新たな企画を立ち上げたり、従来の活動をより発展したものに変わっていく予定です。任期はあと3か月ほどですが、48期の活動を見て「生徒会をやってみ



たい」という生徒が一人でも多く出てきてくれれば「持続可能」につながると考えています。



Chromebookで海外と繋がる!

6月14日(火)、下福田小学校の6年1組は、オーストラリアのNorville State School(クインズランド州)の児童と、インターネットを介したテレビ電話(Skype)を活用して英語で交流しました。

画面にオーストラリアの児童が映し出されると、「つながった!」と歓声があがり、画面に向かって手を振ると、オーストラリアの児童も笑顔で手を振り返し、交流が始まりました。

日本のことについて英語で話すと、「いいね!」と相手もジェスチャーを交えながら反応を示し、その場にいる全員で伝わった喜びを分かち合いました。

さらに、ゲームやアニメなど、共通の話題へ話が進むと、「知っています!」「何のゲームが好き?」など、大変に盛り上がりました。

オーストラリア 国際交流 下福田小学校

こども版「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、小中学生に向け、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。